

みなさまへのメッセージ

みなさまには、平素より私ども第一勧業銀行をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

さて、平成10年度を振り返ってみますと、「日本版ビッグバン」が一層進展し、国境や業態を超えた業務の提携が相次ぐなど、競争は一段と激しくなってきました。またその一方で、長引く国内景気の低迷や不良債権問題などから、日本の金融機関を取り巻く経営環境はますますその厳しさを増してきております。

このような状況下、これまで以上に銀行の経営内容に関する情報開示(ディスクロージャー)が求められておりますことから、当行といたしましても、みなさまに経営内容をよりわかりやすくご理解していただくことを主眼として、本年度も本冊子を作成いたしました。

当行は本年4月より「第1次経営計画」をスタートさせました。計画期間は平成14年3月末までとしておりますが、この3年間で当行のめざすべき姿は、

それぞれのお客さまニーズに応じた市場競争力のある商品・サービス提供力の確立

健全な資産構造・強靱な収益構造を有する財務体質に支えられたリスクマネジメント力の確立

長期的な信頼・支持を獲得するための優位性あるブランド力の確立

の三つの戦略を柱とした経営方針のもとで、

『金融ビッグバンへの戦略的な取り組みにより、お客さま、株主のみなさま、市場、社会の信頼にお応えできる、高い企業価値を持った金融グループ』

となることとあります。

昨年度、当行は米国J. P. モルガンとの投資信託業務に関する包括的提携や、富士銀行との信託分野における合併事業に着手するなど、グループ全体としての戦略的布石を打ってまいりましたが、これらの新事業につきましては、本年度より本格的に業務を展開することとなります。当行は、今後ともその他の関連会社も含めまして、DKBグループの総力を結集することにより、お客さまの広範かつ多様化するニーズに適切にお応えしてまいり所存であります。



頭取 杉田力之

また、「第1次経営計画」のスタートに合わせて、そのビジョンの実現に向け、これまでの組織・体制を抜本的に見直し、本年4月よりカンパニー制(社内分社型経営)を導入いたしました。このカンパニー制導入の目的は、「お客さまニーズへの迅速・的確な対応」と、「組織の一層の活性化と責任の明確化」ならびに「各カンパニーの役割期待の明確化と専門性の強化」の3点であります。このカンパニー制のもとで各カンパニーは、「自主性・自律性・創造性」をいかに発揮することにより、お客さまにとって最適な商品・サービスをスピーディーに最適なチャネルでご提供してまいります。

なお、従来より経営の最重要課題として取り組んでまいりました不良債権の処理につきましては、早期に償却・引当問題に決着をつけるとの方針から、平成10年度において、従来基準を大きく上回る追加的かつ予備的な引当を思い切って前倒して実施いたしました。その結果として大幅な損失を計上することとなり、誠に遺憾ではありますが、3期連続の赤字決算となりました。

また、当行は資本の増強による財務体質の強化を図るため、本年3月に「金融機能の早期健全化のための緊急措置に関する法律」(いわゆる金融早期健全化法)に基づき優先株式7,000億円の発行および期限付き劣後ローン2,000億円の借入を実施いたしました。またあわせて、前向きな業務の再構築、経営の合理化の実施による収益力の強化を通じて、わが国の金融の円滑化に寄与し、お客さまに高度な金融サービスを提供するための「経営の健全化のための計画(経営健全化計画)を策定いたしました。

当行は21世紀に向けて新たなビジョンを掲げ、それを実現するための体制を整えました。今後、「第1次経営計画」の実行を通じて、広く社会の信頼を得るべく努力してまいりたいと考えておりますので、みなさまには今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

平成11年7月

頭取

杉田力之